はじめに

キャリア教育と聞いて、皆さまはどのような教育を思い浮かべるでしょうか。文部科学省では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と示しています。簡単に言い換えると「子どもたちが将来社会参画を果たしていくうえで必要となる資質・能力を育む教育」だと捉えています。

現在、社会は急激な変化を遂げており、一例として、AI（人工知能）の急速な発展・普及が挙げられます。人と概ね同等、分野によっては人を上回る質のアウトプットを驚異的な速度で生成可能となったAIは、ビジネスや学術活動に幅広く活用され始めています。令和6年7月内閣府作成の「世界経済の潮流 AIで変わる労働市場」において、「AIの影響が大きく、代替性が高い職業」として、事務的タスクのシェアが大きい40の職業が、「AIの影響が大きく補完性※が高い職業」として、歯科医師や医師、教員（中学校）など20の職業が挙げられています。AI技術1つをとってみても今後の労働市場にどのような影響を与えるのか予測が難しい状況です。

学校現場に意識を向けると、全国学力学習状況調査の児童生徒質問調査の「自分にはよいところがある」という項目は、小中学校ともに向上が見られる一方で、「将来の夢や目標を持っている」という項目では、小学校においては改善傾向がみられるものの中学校では減少傾向にあります。

これらのことをふまえて、今後の予測が難しい社会情勢の中で生き抜いていく子どもたちには、学校における教育活動を通してキャリア教育がめざす「社会的・職業的自立」に向けて必要な力を育んでももらいたいと考えています。中でも、「困難や逆境に対して、柔軟かつ効果的に適応し、回復する力」、いわゆる「レジリエンス」について、着目しているところです。

府教育庁ではこの間、「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」を活用し、地域や社会の課題を解決し、よりよい姿の実現に向けて探究的な学習を展開する「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」に取り組んでいます。本取組みは、「難しいことにも挑戦する力」「他者と協働する力」「変化する社会の中で自ら行動する力」の育成を図ることを、その目的の一つにしており、先に示した子どもたちの「レジリエンス」を育むことにもつながるものと考えています。

本資料には、「わくわく・どきどきSDGsジュニアプロジェクト」の取組みや、子どもたちが主体的に地域と関わり、主体的に学習を深めていく実践事例を紹介しています。今後の各校のキャリア教育・進路指導をはじめとする教育活動の参考にしていただきたいと思います。

また、子どもたちの将来を見据えた適切な進路指導は、キャリア教育において最も重要な要素です。令和7年度公立高等学校入学者選抜では、オンライン出願システムが本格的に導入され、令和7年1月20日には大阪府立高等学校入学者選抜制度改善方針案が示されました。府立高等学校入学者選抜制度も大きな方針転換に動き始めております。このような状況の中で、すべての生徒が主体的に進路選択を行っていくためには、適切な情報を必要な生徒・保護者に届けることはとても大切なことです。ぜひ、中学校だけでなく小学校の教職員の皆様とともに本資料を活用し、小中学校の系統的で切れめのないキャリア教育・進路指導を進めていただきたいと思います。

結びに、本資料の作成に携わっていただきました関係の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

※人の労働を補助して楽にし、生産性を上げ、新たな仕事を生み出すきっかけとなるもの

令和7年3月

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課
課長 芳野 和宏